

世田谷区とウイニペグ

クリスティーヌのこと

柴田 裕子

私が世田谷区からの親善使節としてウイニペグを訪れたのは、中学二年生の十一月のことでした。ちょうどハロウィーンの翌日、真白い粉雪の舞う晩に、私達五人の使節団は目的地ウイニペグに到着しました。空港ではすでに、ホスト・ファミリーの人達が迎えに来ていて、挨拶もそこそこに各家庭に引き取られていきました。

私の滞在した家庭は、両親と三姉妹の五人家族で、私のホストは末っ子のクリスティーヌという十二才の女の子でした。このホーム・ステイで私が一番心配だったのは、言葉です。英語で何か話そうと

●ウイニペグ

ににくい時は一語ずつ丁寧に辞書を引いた

り、絵を書いたりして説明してくれました。この様な温かい家族のおかげで、はじめは黙りがちだった私も、その日のうちに打ちとけることができました。

私が大変嬉しく思ったのは、ホスト・ファミリーの人達が、私に対して本当の娘あるいは姉妹のように接してくれたことです。この家庭は、両親共に働き、二人の姉達は高校に通っていたので、一番遅く起きるクリスティーヌと私は、いつも二人っきりで朝食を食べました。朝食は自分で作るという習慣になっていたので、寝坊すると大変でした。私には家の仕事として、犬の散歩と夕食の準備が与えられました。色々分からないことが多く、苦勞もありましたが、本当の生活を体験するという意味で、とても良かったです。

夕食の後には、彼女達のリクエストにより、「日本語教室」が開かれました。教える内容としては、日本の挨拶や月や曜日の方、その他、知りたい言葉があれば教えてあげました。彼女達の日本への関心が、私の想像以上に強いのは驚きました。歌舞伎、日本の祭、茶道、寺社などについて質問された時は、私も良く知らないために十分な説明ができず、

思っても、その一言一言を辞書で引かなければ話せないのでは、(ああ、じれったいだろうなあ。嫌われたりしないかな...)と、不安でたまりませんでした。

ところが、ホスト・ファミリーの人達は少しもいやな顔をせず、話す時はゆっくり、はっきりと、分かり

とても残念に思い、さらに、自分は日本人でありながら、日本文化に対する関心が薄かったことを深く反省させられました。

その後の寝るまでの数時間は、私とクリスティーヌの「おしゃべりタイム」です。はじめの二、三日は、主に学校のことなど。好きな教科とか、先生、友達のことなど。日がたつにつれて、堅苦しさがとれ、話題も豊富になり、お互いに冗談を交えながら楽しく話すようになりました。時々、はしゃぎ過ぎて、お母さんに叱られたり、金・土曜の晩には、夜中遅くまで辞書を片手にしゃべり続けたこともありました。国籍は違っても、同じ年頃の女の子。考えることは大体似ているのですから。:

九日間のホーム・ステイは、毎日、色々な出来事や発見があり、ホームシックになる暇もなく終わってしまいました。



柴田さんの「日本語教室」

こんなにも楽しく、幸せな日々を過ごすことができたのは、ウイニペグの人々の優しき、思いやりのおかげです。学校で、街角で、そしてホスト・ファミリーで、人々の温かきを感じなかったことはありませんでした。ウイニペグ。そこは私の第二の故郷です。(東京都立新宿高校二年生)

日加親善の架け橋になりたいという日系カナダ人の努力で、一九六〇年以來小・中学校間の図画の交換、姉妹校提携など交流を続けていた東京・世田谷区とウイニペグ市が姉妹縁組をしたのは、一九七〇年十月。以來、友好親善使節団の相互訪問、テレックスで結果を報告しあう同時進行アーチェリー競技会、中学生や一般市民の交換訪問などが行なわれている。交流を促進している世田谷ウイニペグ協会では、そのほか、カナダの写真展示会や映画会、英会話教室、在日カナダ人をまじえたクリスマス・パーティーなども開いている。昨年は、世田谷区障害者福祉団体のウイニペグ訪問も実現した。

ウイニペグは、カナダ中央部に位置するマニトバ州の首都で、人口は約六十万。東部カナダから西部カナダへの玄関口として古くから交通輸送および商品流通の重要地点である。古い教会の建つ、美しい、落ち着いた町としても知られている。

●世田谷区